



平成 25 年 10 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社免疫生物研究所
(コード番号：4570)
本店所在地 群馬県藤岡市中字東田1091番地1
代 表 者 代表取締役社長 清藤 勉
問 合 せ 先 取締役事業統括推進本部長 中川 正人
電 話 番 号 0274-22-2889 (代表)
U R L <http://www.ibl-japan.co.jp>

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向を踏まえ、平成25年6月14日に公表しました平成26年3月期連結業績予想を下記のとおり、修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 平成 26 年 3 月期連結業績予想数値の修正 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,000	△100	△105	△115	△18 円 55 銭
今回修正予想 (B)	720	△200	△205	△225	△36 円 09 銭
増減額 (B - A)	△280	△100	△100	△110	
増減率 (%)	△28.0	-	-	-	

(注)1. 当事業年度より連結財務諸表を作成しているため、前年実績の記載はしていません。

2. 当社は、平成 25 年 10 月 1 日付で 1 株につき 10 株の割合で株式分割しております。
なお、前回発表予想時に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり当期純利益を算定しております。

(参考) 平成 26 年 3 月期個別業績予想数値の修正 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	800	△140	△144	△152	△24 円 53 銭
今回修正予想 (B)	530	△200	△210	△230	△36 円 89 銭
増減額 (B - A)	△270	△60	△66	△78	
増減率 (%)	△33.8	-	-	-	
前期実績 (平成 25 年 3 月期)	800	8	80	153	24 円 83 銭

(注)1. 当社は、平成 25 年 10 月 1 日付で 1 株につき 10 株の割合で株式分割しております。
なお、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 理由

当事業年度の通期連結業績につきましては、タカラバイオ株式会社と販売契約を締結しております研究用関連事業において、前事業年度より当社と同社にて、継続して販売不振の改善策を協議して参りましたが、当事業年度においても改善が見られない状況が続いております。特に、顧客毎のニーズに応え製造・販売を行ってきた受託サービスや、同社の海外子会社を中心とする海外販売において、新規開拓がまったく振るわず当初予想に対して大幅に下回る見込みとなりました。また、医薬用関連事業では、牛海綿状脳症の牛全頭検査に関して、厚生労働省と農林水産省が、各都道府県などに対し平成25年7月1日より一斉に中止するよう通知致しました。これにより、牛海綿状脳症に対する検査が減少することが予想され、牛海綿状脳症検査キットの販売が当初予想を下回る見込みとなりました。

コスト面においては、研究用関連事業及び医薬用関連事業において、人件費削減を継続的に実施しております。また、化粧品関連事業においては、平成25年10月1日より、連結子会社となった株式会社エムコスメティックスによる本格的な化粧品販売を来年度の春商戦から行う予定です。それに先立ち当事業年度においては、全国のドラッグストア及び海外への販売促進費用が計上される見込みです。

利益面においては、売上高が大幅に減少することにより、当初予想に対して、大幅に下回る見込みとなりました。以上の結果、通期の連結業績は、前回発表予想を下回る見込みとなりましたので、上記の通り修正いたします。

当事業年度の通期個別業績につきましては、上記の研究用関連事業及び医薬用関連事業の理由により、前回発表予想を下回る見込みとなりましたので、上記の通り修正いたします。

2. 今後について

(研究用関連事業)

販売不振の原因を徹底的に追究し、利益の回復を最優先に掲げ、タカラバイオ株式会社と協議して参ります。特に、海外においては当社独自の販売戦略を視野に入れて積極的に販路拡大に努めてまいります。

(医薬用関連事業)

牛海綿状脳症に対する動物用体外診断用医薬品については、今後、需要の縮小が見込まれますが、競合他社の撤退が見られるため、来年度以降については、前事業年度並みの売上高を確保できる見込みです。また、新規のアルツハイマー病に対する体外診断用医薬品に向けた研究開発は、順調に進行しております。(同日発表の「新中期経営計画(連結)の修正に関するお知らせ」参照)

(遺伝子組換えカイコ事業)

遺伝子組換えカイコの繭より生産される有用タンパク質の特徴が、積極的な宣伝によりようやく浸透し、医薬品関連企業等からの引き合いが増加しております。また、中期経営計画(同日発表の「新中期経営計画(連結)の修正に関するお知らせ」参照)の施策については、計画通りに進行しており、売上目標を2017年3月期6億円、2018年3月期10億円を目指して参ります。

(化粧品関連事業)

遺伝子組換えカイコの繭より生産されるヒト・コラーゲンを含有する新しい化粧品が、平成25年11月中旬に製品化され、来年度の春商戦に向けて国内外にサンプル出荷が開始されます。今後、全国のドラッグストア及び海外への販売活動に注力して参ります。売上目標は、2015年3月期4億円を目指して参ります。

(脂質代謝解析関連事業)

生活習慣病が社会問題となる中、当社グループが所有する脂質代謝解析技術は、同領域での創薬・研究支援に加え予防・診断支援などの需要が増加しており、当初の計画通りに推移しております。さらに向上を目指して設備の充実及び人材の確保に努めてまいります。

今後につきましては、既存事業の回復、新事業への挑戦に当社グループが一丸となり、企業価値の向上を目指し、株主の皆様にご貢献して参る所存です。

以 上